

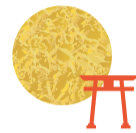
壹

そもそも神社って、どんな場所？

神社の起源は、縄文時代にまで遡ると言われている。集落に恵みを与え、時には猛威をふるった自然の力。それらの自然に畏敬の念を抱いた人々は、次第に自然や動植物に神が宿っていると考えるようになった。そして、神が宿るものとして山や木、岩などを祀って神様に感謝や祈りを捧げるおまつりを執り行い、信仰心を深めていった。そのおまつりをする場所に社が建つようになり、社が建つようになっていきました。つまり、神社とは神が宿る神域であり、その神域を守っていくことで人々が結束を強めた場所でもある。

初詣の前に
知っておきたい

地元神社の はなし



神社には、自分が生まれ育った場所や現在暮らしている地域に鎮座する「氏神社」と、地縁・血縁的な関係以外で個人の特別な信仰などにより崇敬する「崇敬神社（すうけいじんじき）」がある。もちろん、氏神社と崇敬神社の両方を信仰することになった。そして、神が宿るものとして山や木、岩などを祀って神様に感謝や祈りを捧げるおまつりを執り行い、信仰心を深めていった。そのおまつりをする場所に社が建つようになり、社が建つようになっていきました。つまり、神社とは神が宿る神域であり、その神域を守っていくことで人々が結束を強めた場所でもある。

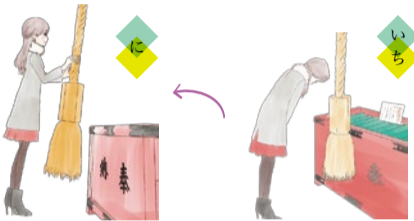
貳

正しい参拝のイロハ

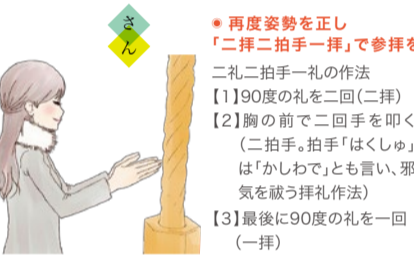
誰もが訪れたことはあるものの、神社のことを知る機会意外と少ないと思います。年末年始のこの時期、自分の訪れる神社の起源や歴史を知っておけば、楽しみが増えるかもしれません。

神社は、神様が宿る場所。マナーを守って、正しく参拝しよう。神社で最初に目にする「鳥居」は、神域への入り口。一礼してからくぐり参道へ。参道の中央は、「正中（せいちゆう）」と呼ばれる神様の通り道、参拝者は端を歩くように。また、参道脇にある「手水舎（てみずしや）」で手と口を清めることを忘れずに。（祓社（はらいのやしろ）がある神社であれば、まずはここを参拝して心身を清める）奥には、祭神が祀られている「本殿」がある。ただし、神様が宿る岩や木などの「依り代」を御神体とする神社には、本殿がない場合も。その場合は、「拝殿」で参拝を。また、境内には本殿の他にも、摂社・末社と

本殿での参拝作法



- 鈴を鳴らす
鈴は、昔から神霊を招く道具といわれている。大きな音を出さずと無理せず、丁寧に鳴らすように
- 神前で姿勢を正し、一礼
帽子は外すなど、参拝の際は身なりも整えよう。賽銭の「賽」は神様へのお礼を意味するので、基本的には投げないが、マナー。額も決まりはないが、「ご縁」をいただけるようにと5円玉や50円玉を入れる人が多いそう



- 再度姿勢を正し「二拝二拍手一拝」で参拝を
二礼二拍手一礼の作法
【1】90度の礼を二回（二拝）
【2】胸の前で二拍手を叩く（二拍手。拍手「はくしゅ」は「かしわで」とも言い、邪気を祓う拝礼作法）
【3】最後に90度の礼を一回（一拝）

御朱印帳の楽しみ方

最近、ブームにもなっている御朱印。元々はお経を寺院に納め、その証拠にいただくものだったが、江戸時代ごろから神社でも出されるようになったといわれている。御朱印は、花や植物の社紋や動物をかたどった印など、それぞれの神社の由緒や伝説を表現している。スタンプラリーではないので、お礼やお守りと同じように扱うこと。



取材協力：神社本庁
<http://www.jinjaoncho.or.jp>

気になる

北摂エリアの神社

それぞれの神社の起源や歴史をご紹介します。

阪急服部天神駅からすぐ、「足の神様」として親しまれている。古くは医薬の祖神である少彦人命（すくなひこのみこと）を祀っていたことがはじまりといわれているが、名が広まったきっかけは学問の神様として知られる菅原道真が太宰府へ左遷される際に立ち寄ったことか。この地で持病の脚気に悩んだ道真は祠（ほこら）に平癒（へいゆ）を祈願、無事に治ったと伝わっている。道真が亡くなった後、北野天満宮をはじめ天神信仰が各地で盛んになるなか、ここでも道真の霊を祀り「服部天神宮」を建立。道真が脚気を治した霊験も広まり、門前町ができるほど発展した。

また、江戸時代中期から末期は「大坂」と「池田」や「能勢」などを結ぶ主要幹線道路「能勢街道」に面していたこともあり、多くの参拝者が集まる最盛期に。宿場町として料亭や茶店が軒を連ね賑わっていたことなどが、絵馬や建造物で残っている。

現在では、足の病気はもちろん、サッカーや野球、ウォーキングなどのスポーツをする人たちの健脚祈願としても人気。毎年8月25日には、神職が参列者の足をさすり、特別わらじ御守の授与などを行う、全国でも珍しい「足の守護祈願大祭」に遠方から参拝者が訪れる。

服部天神宮

（ハットリテンジングウ）



菅原道真も祈願した 由緒ある足の神様

- 1.奥に見える本殿は最盛期の文政10年に造営されたもので、当時の棟札が現存している
- 2.菅原道真像。あくらの中央に空間があり、草履を入れて祈願する人が多いそう
- 3.足の病が完治した人らが奉納した草履が残る草履堂。なかには江戸時代の草履も
- 4.裏門前の通りが旧能勢街道。今も飲食店など多くの商店があり、門前町の雰囲気が残る



5.脚気の薬を販売していた天神丸本舗の碑。かつて参拝者目当てに境内に店を構えていた



豊中市服部元町1-2-17
10~3月6時~18時
4~9月6時~19時
06-6862-5022
<http://www.apsara.ne.jp/hattori-tenjingu>